

本邦「腸および腹膜の結核」年齢階級別死亡率性比の研究

東京女子医科大学衛生学教室 (主任 吉岡博人教授)

明 石 み 代
アカ シ ミ ヨ

(受付 昭和35年9月7日)

緒 言

さきの研究⁹⁾において著者は「全結核」および「臓器別結核」死亡率性比の年次的観察を全年令について行なった。ついで「全結核」死亡率性比を年齢階級別に分析した⁹⁾。さきにこれを臓器別に分析してすでに「呼吸器系の結核」について報告¹⁰⁾した。本報では、「腸および腹膜の結核」(死因番号: 明治32~41年14, 明治42~大正11年中分類15, 大正12年~昭和7年小分類33, 昭和8~18年小分類25, 昭和22~24年15, 昭和25~30年基本分類 011)の年齢階級別死亡率と死亡率性比の年次的推移を観察する。

資料および研究方法

資料: 先報⁹⁾と同じ。

研究方法: 明治32年より昭和30年にいたる57年間より、国勢調査年度における「腸および腹膜の結核」死亡率を性別および年齢5才階級別に求め、ついでこれの性比を算出し、両者の年次的推移を観察した。しかし、昭

和10年は分類の方法が違うために使用できないので、その代わりに昭和12年の死亡数を用いた。性比=(男子死亡率/女子死亡率)×100

研究の結果

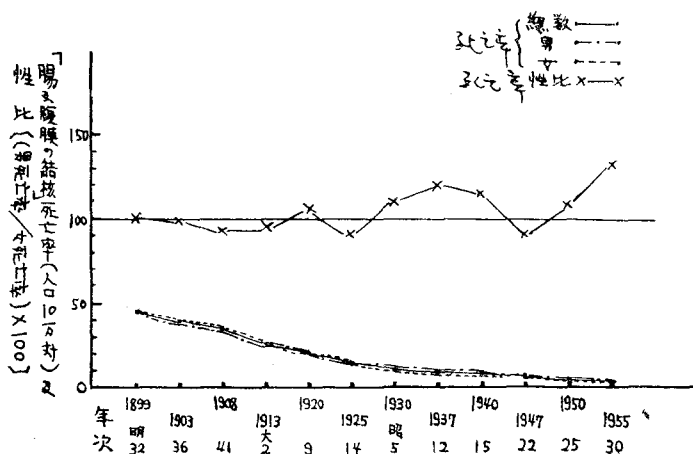
I. 「腸および腹膜の結核」性別年齢階級別死亡率および死亡率性比の年次的推移

1. 0~4才(第1図, 末尾の付表, 以下同様)

死亡率(人口10万対, 以下同様)は明治32年に男女ともに44.5で全期間中の最高値を示す。以後男女ともに年次を追って下降し、昭和30年に最低値男0.4, 女0.3を示す。

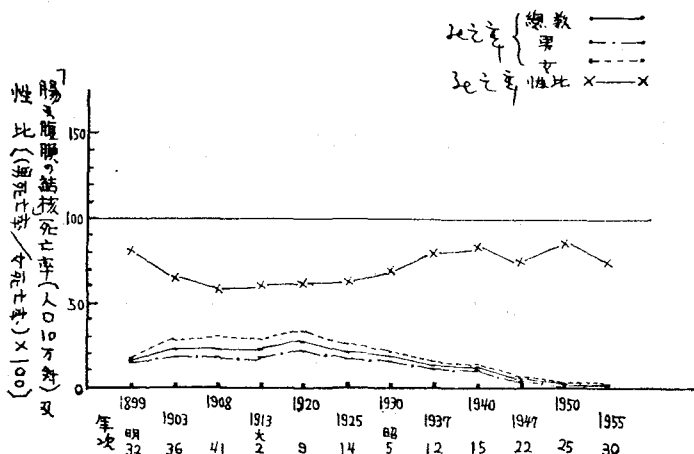
性比は明治32年に100で、以後死亡率とともに下降し、大正14年に最低値90.9を示す。以後昭和年代に入つてからは、昭和22年に一時下降する以外は、死亡率下降に逆行して上昇し昭和30年に最高値133.3を示す。昭和年代では22年以外は100の線以下を示すことはない。

2. 5~9才(第2図)



第1図 「腸及腹膜の結核」性別年齢階級別死亡率及死亡率性比(0~4才)

Miyo AKASI (Department of Hygiene, Tokyo Women's Medical College): Studies on the sex ratio of age specific death-rates from tuberculosis of the intestines and peritoneum in Japan.



第2図 「腸及腹膜の結核」性別年齢階級別死亡率及死亡率性比（5～9才）

死亡率は明治32年に男14.0，女17.0で女子が男子より高い。以後男女ともに上昇して大正9年に最高値男21.4，女33.7を示す。以後は男女ともに年次的に下降し，昭和30年に最低値男0.3，女0.4を示す。

性比は明治32年に81.9で，以後死亡率上昇に逆行して性比下降し，明治41年に全期間中の最低値59.4を示す。以後は死亡率の昇降にかかわらず大正年代は性比60台で停滞するが，昭和年代は死亡率下降に逆行して上昇し，昭和25年に全期間中の最高値86.2を示す。以後は死亡率とともに下降する。この年齢階級の性比は終始低く，90の線を越えることはない。

3. 10～14才（第3図）

死亡率は明治32年に男11.0，女20.2で，女子は男子の2倍近く高い。以後男女ともに年次的に上昇し，大正9年に男24.3，女65.5で男女ともに全期間中の最高値を示す。以後男女ともに年次的に下降し，昭和30年に全期間中の最低値男0.3，女0.4を示す。

性比は全年令階級中でこの年齢階級と30～34才の年齢階級が最も低い。明治32年は54.5で50の線以上にあるが，以後死亡上昇に逆行して下降し，明治41年に全期間中の最低値35.6を示し，以後大正年代は30代に停滞する。昭和年代は死亡率下降に逆行して上昇し，多少の昇降はあるが40代で経過する。昭和30年に死亡率に逆行して急上昇し，全期間中の最高値75.0を示す。性比が50の線を越えるのは，明治32，昭和15，30年のみである。

4. 15～13才（第4図）

死亡率は明治32年に男16.1，女28.9で，女子は男子の1.8倍弱高い。以後男女ともに年次的に大正9年まで上昇し，女子は全期間中の最高値145.5を示す。以後女子は年次的に下降して昭和30年に全期間中の最低値1.1を示し，男子は一時下降後再上昇して昭和15年に最高値71.3を示し，その後急下降して昭和30年に最低値0.6を示す。

性比は明治32年に55.7で，以後死亡率上昇に逆行して大正9年まで下降し，全期間中の最低値44.1を示す。ついで死亡率下降に逆行して性比上昇し，昭和15年に全期間中の最高値66.3を示す。以後は下降するが昭和30年に50台に戻る。この年齢階級では全期間を通じて，性比は70と40の線の間で経過する。

5. 20～24才（第5図）

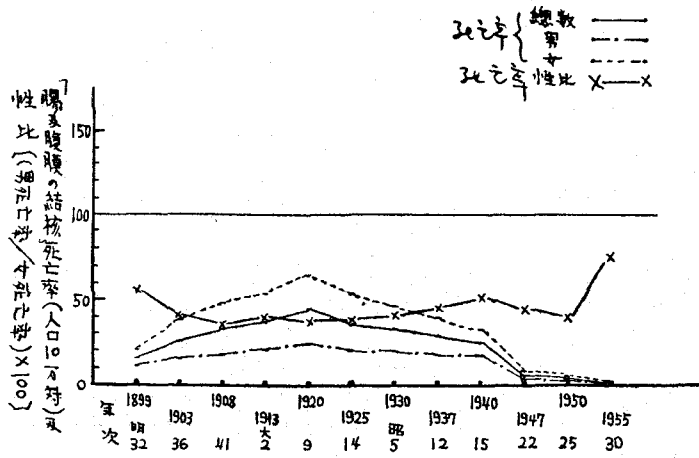
死亡率は明治32年に男17.5，女26.2で，女子は男子の1.5倍弱高い。以後男女ともに大正9年まで上昇し，女子は全期間中の最高値117.5を示し男子の1.7倍強高い。以後女子は昭和12年の一時上昇以外は下降して，昭和30年に全期間中の最低値2.0を示す。男子は昭和5年まで下降の後上昇し，昭和15年に最高値86.0を示し，以後は急下降して昭和30年に最低値1.1を示す。

性比は明治32年に66.8で，ついで下降して50台で大正年代まで経過し，昭和年代は死亡率とともに上昇して，昭和15年に全期間中の最高値90.4を示す。以後死亡率とともに下降して，昭和25年に最低値46.3を示すが，同30年には50台に戻る。この年齢階級では昭和15年にわずかに90の線を出るのみで，その他は終始90の線以下である。

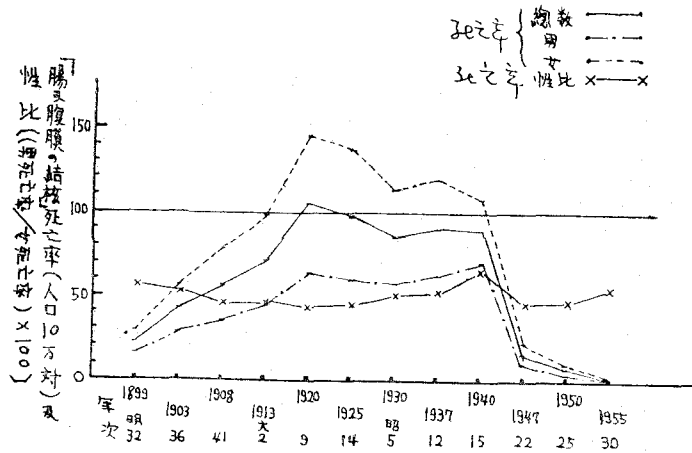
6. 25～29才（第6図）

死亡率は明治32年に男12.8，女22.2で，女子は男子の1.7倍強高い。以後男女ともに大正9年まで上昇し，女子は全期間中の最高値80.8を示し，男子の2倍強高い。以後女子は多少の昇降はあるがほぼ順調に下降し，昭和30年に全期間中の最低値2.6を示す。男子は昭和5年に一時下降の後上昇し，昭和15年に最高値45.8を示し，以後は急下降して昭和30年に最低値1.9を示す。

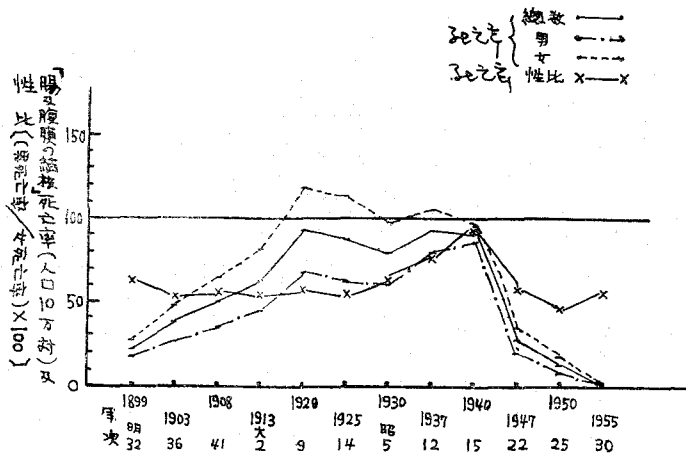
性比は明治32年に57.7で，ついで死亡率上昇に逆行して大正2年まで下降して全期間中の最低値43.0を示す。以後は死亡率の昇降に関係なく昭和15年まで上昇して後は，死亡率とともに昭和25年まで下降するが，昭和30年



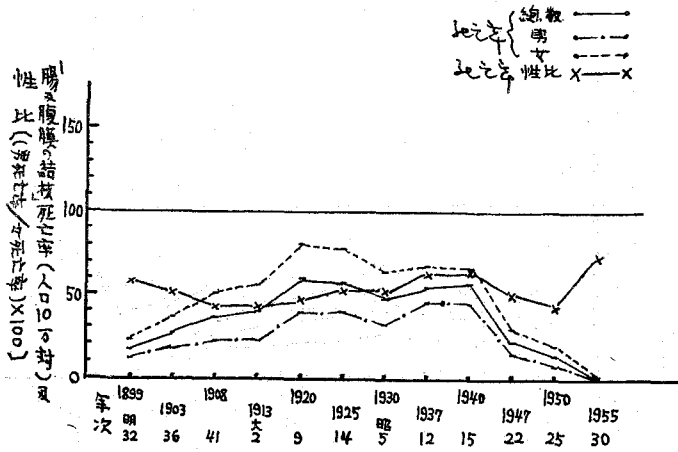
第3図 「腸及腹膜の結核」性別年齢階級別死亡率及死亡率性比 (10~14才)



第4図 「腸及腹膜の結核」性別年齢階級別死亡率及死亡率性比 (15~19才)



第5図 「腸及腹膜の結核」性別年齢階級別死亡率及死亡率性比 (20~24才)



第6図 「腸及腹膜の結核」性別年齢階級別死亡率及死亡率性比 (25~29才)

に死亡率下降に逆行して上昇し、全期間中の最高値73.1を示す。この年齢階級では昭和30年に70の線をこえる以外は、性比は40と70の線の間で経過する。

7. 30~34才 (第7図)

死亡率は明治32年に男9.5, 女17.3で、女子は男子の1.8倍強高い。以後男子は大正14年まで、女子は大正9年まで上昇して、女子は全期間中の最高値60.0を示す。男子は昭和5年に一時下降の後は上昇して昭和15年に最高値25.4を示す。以後は男女ともに下降し、昭和30年に男1.2, 女3.2で男女ともに最低値を示す。

性比は明治32年に54.9で、ついで死亡率上昇に逆行して明治41年まで下降の後は、死亡率とともに大正14年まで上昇する。以後昭和5年に一時下降するがただちに上昇して、昭和15年に全期間中の最高値59.2を示す。以後は死亡率とともに下降し、昭和25年に全期間中の最低値33.3を示すが、昭和30年に死亡率急下降に逆行して性比上昇するが30台に止る。この年齢階級では全期間を通じ

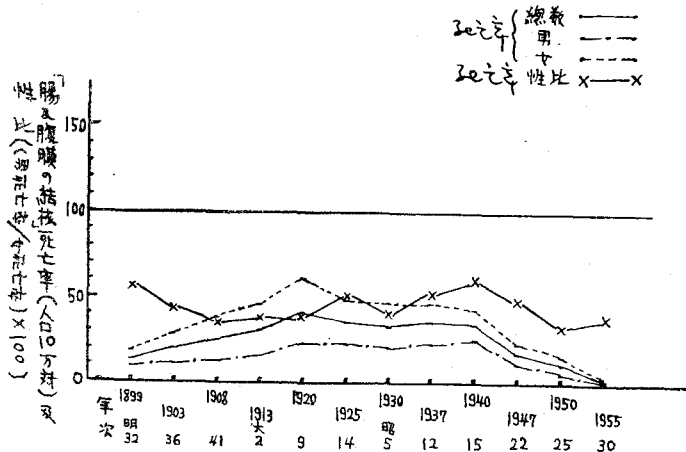
て性比は60と30の線の間で経過する。全年令階級中でこの年齢階級は、10~14才の年齢階級とともに性比は最も低い。

8. 35~39才 (第8図)

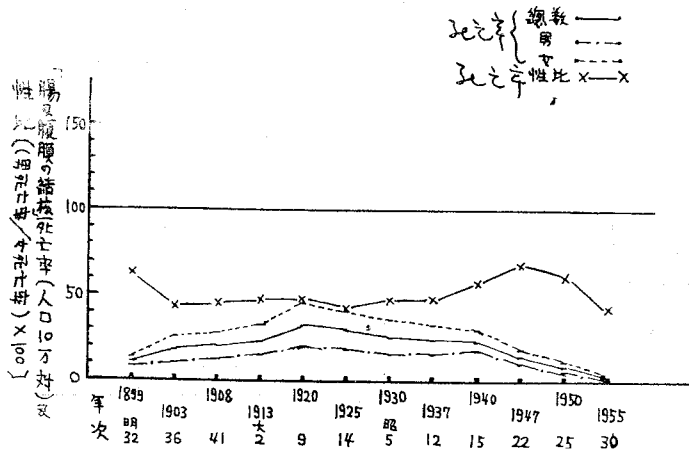
死亡率は明治32年に男8.6, 女13.6で、女子は男子の1.5倍強高い。以後男女ともに大正9年まで上昇して、全期間中の最高値男20.3, 女44.1を示す。以後は男子が昭和15年に一時上昇する以外は、男女ともに下降して、昭和30年に全期間中の最低値男1.7, 女3.9を示す。

性比は明治32年に63.2で、ついで死亡率上昇に逆行して下降し、明治36年に全期間中の最低値42.9を示す。以後死亡率とともに昇降して大正年代まで経過し、昭和年代は死亡率下降に逆行して性比上昇し、昭和22年に全期間中の最高値67.1を示し、以後は死亡率とともに下降する。この年齢階級は明治32年、昭和22年に性比60以上を示すのみで、それ以外は40から60の間で経過する。

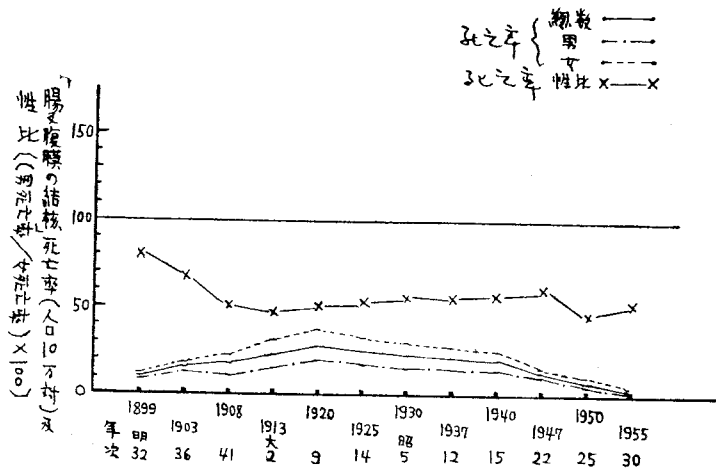
9. 40~44才 (第9図)



第7図 「腸及腹膜の結核」性別年齢階級別死亡率及死亡率性比 (30~34才)



第8図 「腸及腹膜の結核」性別年齢階級別死亡率及死亡率性比 (35~39才)



第9図 「腸及腹膜の結核」性別年齢階級別死亡率及死亡率性比 (40~44才)

死亡率は明治32年に男9.3, 女11.5で, 女子は男子の1.2倍強高い。以後男女ともに上昇して, 大正9年に全期間中の最高値男19.5, 女38.6を示す。以後男女ともに年次的に下降して, 昭和30年に全期間中の最低値男1.8, 女3.4を示す。

性比は明治32年に80.9で全期間中の最高値を示し, 以後死亡率上昇に逆行して大正2年まで下降する。ついで死亡率の昇降にかかわらず昭和5年まで上昇してから同22年まで停滞し, 昭和25年に下降して全期間中の最低値48.3を示すが, 昭和30年に再び50台に戻る。この年齢階級は明治32年に80をこえるのみで, それ以外は40から70の間で経過する。

10. 45~49才 (第10図)

死亡率は明治32年に男8.6, 女12.9で, 女子は男子の1.5倍高い。以後男女ともに上昇して, 大正9年に全期間中の最高値男19.1, 女30.3を示す。以後男女ともに昭和12年まで下降し, 同15年に一時上昇するが, 以後は年次的に下降して, 昭和30年に全期間中の最低値男2.0, 女4.2

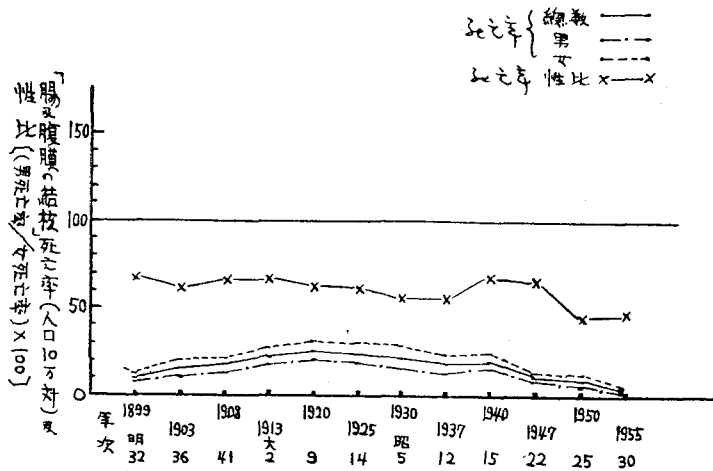
を示す。

性比は明治32年に66.7で, 以後死亡率の昇降にかかわらず昭和5年まで下降し, ついで上昇して昭和15年に全期間中の最高値67.8を示す。以後死亡率とともに下降して昭和25年に全期間中の最低値45.6を示すが, 昭和30年に死亡率に逆行してわずかに上昇する。この年齢階級では全期間を通じて性比は40台から60台の間で経過する。

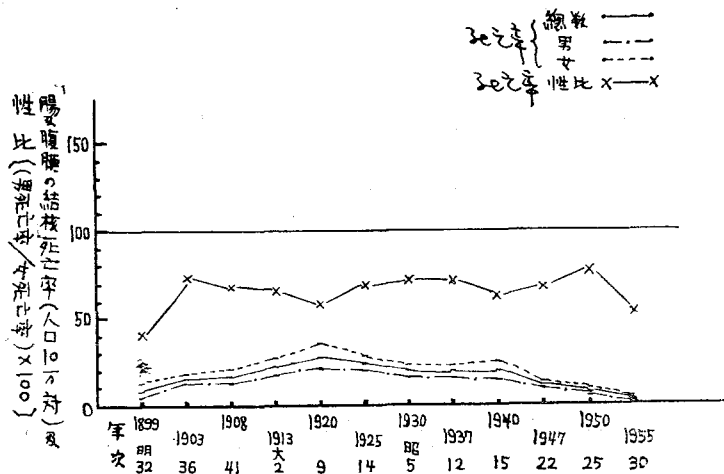
11. 50~54才 (第11図)

死亡率は明治32年に男5.1, 女12.4で, 女子は男子の2.4倍強高い。以後男女ともに上昇して, 大正9年に全期間中の最高値男21.1, 女36.6を示す。以後は女子が昭和15年にわずかに上昇する以外は, 男女ともに下降して, 昭和30年に全期間中の最低値男2.4, 女4.6を示す。

性比は明治32年に41.1で全期間中の最低値を示す。同36年に死亡率とともに上昇するが, 以後は死亡率上昇に逆行して大正9年まで下降する。以後は昭和15年の一時下降以外は, 死亡率下降に逆行して上昇し, 昭和25年に全期間中の最高値75.6を示す。昭和30年に死亡率とともに



第10図 「腸及腹膜の結核」性別年齢階級別死亡率及死亡率性比(45~49才)



第11図 「腸及腹膜の結核」性別年齢階級別死亡率及死亡率性比(50~54才)

に下降して50台に戻る。この年齢階級で性比が40台を示すのは明治32年のみで、それ以外は50から80の間で経過する。

12. 55~59才(第12図)

死亡率は明治32年に男11.2, 女11.8で女子がわずかに高く、以後男子は大正2年まで上昇して全期間中の最高値22.0を示し、女子は大正14年まで上昇して最高値27.3を示す。以後は男子が昭和15年に一時上昇する以外は、男女ともに下降して、昭和30年に全期間中の最低値男3.8, 女5.5を示す。

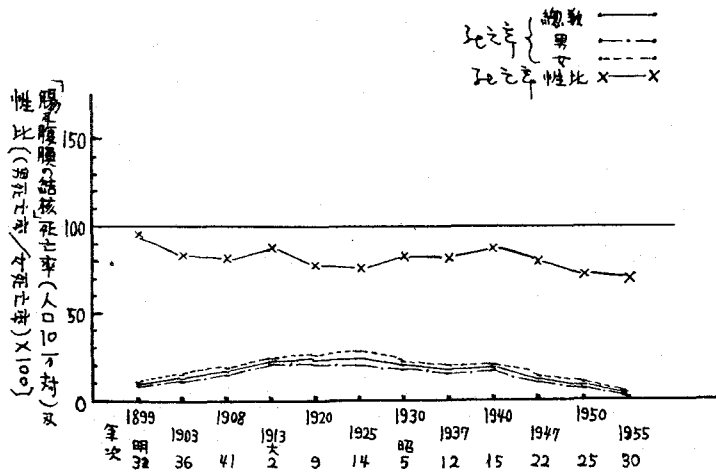
性比は明治32年に94.9で全期間中の最高値を示す。以後は死亡率上昇に逆行して大正14年まで下降し、ついで死亡率下降に逆行して昭和15年まで上昇する。この間に多少の起伏はある。以後は死亡率とともに下降して、昭和30年に全期間中の最低値69.1を示す。この年齢階級では、明治32年に90をこえるのみで、それ以外は90以下である。また昭和30年に70以下を示すがそれ以外は70以上

である。

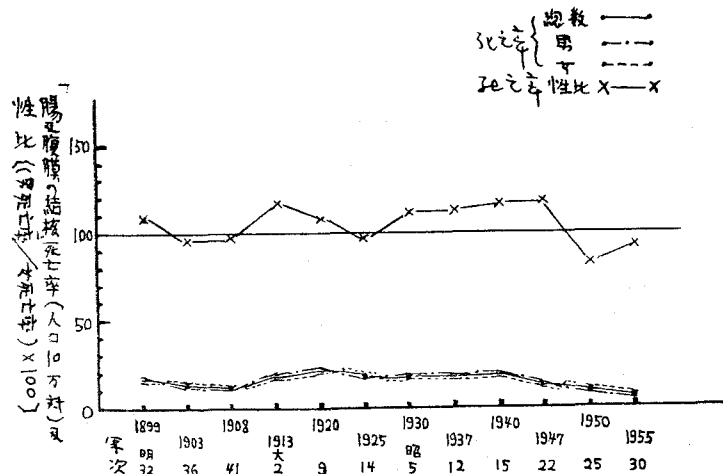
13. 60才以上(第13図)

明治32年に男17.1, 女15.9で男子が高い。以後男女ともに明治41年まで下降の後上昇し、大正9年に全期間中の最高値男21.1, 女19.8を示す。以後男女ともに昭和15年の一時上昇以外は下降して、昭和30年に全期間中の最低値男6.2, 女6.6を示す。

性比は明治32年に107.5で、明治年代に100以上を示すのはこの年齢階級のみである。ついで同36年に一時下降の後、大正2年まで死亡率とともに上昇する。以後は下降して大正14年に100以下を示すが、ついで上昇し110台で更に上昇して、昭和22年に全期間中の最高値117.5を示す。昭和25年に男子死亡率のみ下降したために性比83.5で全期間中の最低値を示す。昭和30年に死亡率下降に逆行して上昇するが、100以下にとどまる。この年齢階級は明治36, 41, 大正14, 昭和25, 30年に100以下を示すのみで、その他は100以上を示す。また



第12図 「腸及腹膜の結核」性別年齢階級別死亡率及死亡率性比 (55~59才)



第13図 「腸及腹膜の結核」性別年齢階級別死亡率及死亡率性比 (60才以上)

100以下を示す年でも、昭和25年以外は90以上である。全年令階級の中で、この年齢階級と0~4才の階級のみが100の線をこえる。

II. 「腸および腹膜の結核」年齢階級別死亡率性比の相互比較

つぎに「腸および腹膜の結核」年齢階級別死亡率性比の相互比較のために、各年齢階級別死亡率性比の年次変化を同一図上に描いて検討したい。

さきに「全結核」においては性比100の線を境界としてその上下に分けたところ、30才未満および30才以上、「呼吸器系の結核」においては25才未満および25才以上に一括し得た。本報「腸および腹膜の結核」においては、0~4才と60才以上の階級をのぞいてはすべて階級が100以下の性比、すなわち女性の死亡超過を示すが、ここでは便宜上0~29才を一括して第14図aに、30才以上を一括して第14図bに示した。

a. 0~29才 (第14図a)

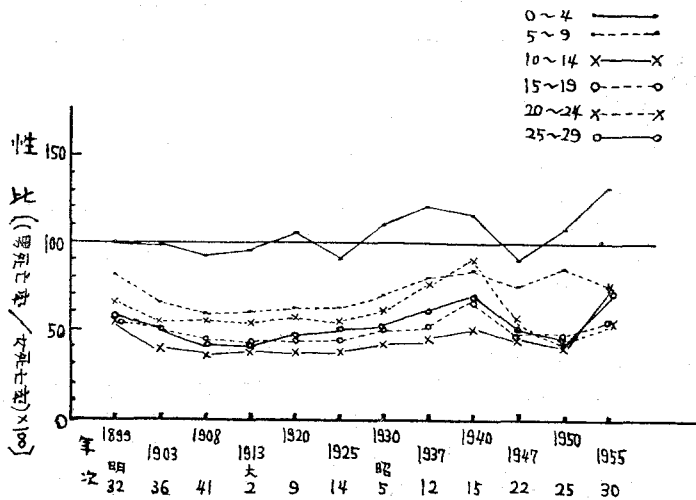
0~29才の年齢階級の中で、0~4才は明治36, 41, 大正2, 14, 昭和22年に100をわずかに下るのみで、それ以外は100以上を示し、30才未満の階級中で最も高性比を示し、戦後も著明に上昇する。

5~9才は明治41年に60以下を示す以外は60~80台で経過し、戦後下降するが著明ではない。

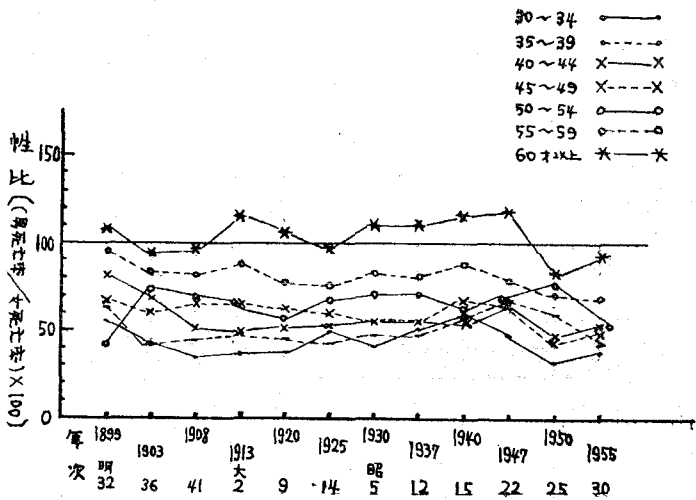
20~24, 25~29, 15~19, 10~14才は高い方よりこの順に位し、角度近似の経過をとる。いずれも明治41年まで下降の後には徐々に上昇して、昭和15年に峰を示し、戦後下降するが昭和30年に上昇する。しかしいずれも30から90の間の昇降である。

b. 30才以上 (第14図b)

30才以上の年齢階級のうちに60才以上は明治36, 41, 大正14, 昭和25年に降わずかに100を下降するのみで、それ以外は100以上を示し、30才以上の階級中で最も高



第14図 a 「腸及腹膜の結核」年齢階級別死亡率性比 (0~29才)



第14図 b 「腸及腹膜の結核」年齢階級別死亡率性比 (30才以上)

性比を示し、昭和25年に下降するが同30年に上昇する。

55~59, 50~54, 45~49, 40~44, 35~39, 30~34才
は高い方よりこの順位に位し、50~54才以外は角度近似
の経過をとる。50~54才以外はいずれも明治36, 41年に
下降の後は徐々に上昇して、55~59, 45~49, 30~34才
では昭和15年に峰を示し、60才以上および、40~44, 35
~39才では昭和22年に峰を示す。ついで下降するが、昭
和30年に55~59, 35~39才以外は上昇する。

50~54才では明治36年に上昇の後下降し、大正14年よ
り上昇して昭和5, 12年の峰を示し、ついで下降の後
は、他の階級が下降する昭和25年に峰をつくり、同30年
に55~59, 35~39才と同様に下降する。

60才以上を除く他のいずれの階級も30~90台の間の昇
降である。

C, a群とb群との比較

次にa群とb群より近似の、および相違の点を挙げれば
次の如くである。

0~4才と60才以上は最も高性比を示し経過も近似す
る。

5~9才と50~54才は性比の高さおよび経過が近似す
る。

20~24, 40~44 および 45~49 才は性比の高さが近似
し、15~19, 25~29および35~39才は性比の高さが近似
する。10~14と30~34才は性比の高さが近似し、最も低
くおむね30~50台を示す。

10~14, 15~19, 20~24, 25~29, 30~34才は性比腺
の角度近似の経過をとり、35~39, 40~44, 45~49, 55
~59才はおおむね角度近似する。5~9才は戦前は10~
34才の群の角度に近似し、戦後は50~54才の角度に近似
する。50~54才は戦前は60才以上と角度近似し、戦後は

5～9才に角度近似する。

総合的考察および結論

明治32年より昭和30年にいたる57年間より、国勢調査年度における「腸および腹膜の結核」性別死亡率および死亡率性比を、各年令5才階級別に観察した結果を総合すればつぎのことが看取される。

I. 「腸および腹膜の結核」性別年令階級別死亡率

1. 0～4才では明治32年に最も高く、以後なだらかな坂を示して年次的に下降し峰はつくらない。しかしておおむね男子死亡率が女子より高い。

2. 5～9, 10～14才の2階級では死亡率上昇による峰は著明でなく、大正9年に低い第1峰を示して後下降し、第2峰はつくらない。昭和15年以降は著明に下降する。終始女子死亡率が男子より高い。しかして男子死亡率は5～9才と10～14才でおおむね同値を示すが、女子では10～14才が5～9才よりはるかに高い。

3. 15～19, 20～24才の2階級では死亡率上昇による第1峰は大正9年に、第2峰は男子は昭和15年、女子は昭和12年に示す。いずれも昭和15年以降は著明に下降する。終始女子死亡率が男子より高く、全年令階級中でこの2階級が最も死亡率が高い。

4. 25～29才では死亡率上昇による第1峰は大正9年に、第2峰は昭和15年に示し、以後は著明に下降する。終始女子死亡率が男子より高い。

5. 30～34, 35～39才の2階級では死亡率上昇による第1峰を大正9年に示す。以後男子は丘陵状に停滞して昭和15年の第2峰に移行し、女子は年次的に下降して第2峰を示さない。いずれも昭和15年以降は著明に下降する。終始女子死亡率が男子より高い。

6. 40～44, 45～49, 50～54才の3階級では死亡率上昇による第1峰を大正9年に示す。以後40～44才と男子の50～54才はなだらかな坂を示して年次的に下降し、第2峰を示さない。45～49才と女子の50～54才は丘陵状に停滞して昭和15年の第2峰に移行する。いずれも昭和15年以降は著明に下降する。終始女子死亡率が男子より高い。

7. 55～59才では死亡率上昇による第1峰を、男子は大正2年に示し、女子は大正14年に示す。以後女子はなだらかな坂を示して年次的に下降し第2峰をつくらない。男子は昭和15年に第2峰を示し、以後年次的に下降する。男女ともに昭和15年以降の下降速度は55才未満の階級に比較して緩徐である。終始女子死亡率が男子より高い。

8. 60才以上の階級では明治32年に高く、以後下降の後上昇して大正9年に第1峰を示し、以後は丘陵状に停滞して昭和15年の低い第2峰に移行する。昭和15年以降の下降速度は、55～59才の階級と同様に、55才未満の階級より緩徐である。昭和25年以降を徐くと、おおむね男

子死亡率が女子より高い。

II. 「腸および腹膜の結核」年令階級別死亡率性比の相互比較

さきに「全結核」および「呼吸器系の結核」死亡率性比において、30才未満および30才以上の2群に一括して報告した。本報、「腸および腹膜の結核」年令階級別死亡率性比においては、便宜上前報にならつて、0～29才をa群とし、30以上をb群とする。

a. 0～29才

0～4才はおおむね性比100以上を示し、30才未満の階級中で最も高性比を示し、戦後も著明に上昇する。

5～9才はおおむね性比60～80台で経過し、戦後は下降する。

20～24, 25～29, 15～19, 10～14才の4階級は、高い方よりこの順位に位し、角度近似の経過をとる。いずれも明治41年まで下降の後、昭和15年まで上昇し、戦後下降するが昭和30年に上昇する。性比30～90の間で経過する。

b. 30才以上

60才以上の階級はおおむね性比100以上を示し、30才以上の階級中で最も高性比を示し、戦後も上昇する。

55～59, 50～54, 45～49, 40～44, 35～39, 30～34才の6階級は高い方よりこの順位に位し、50～54才以外は角度近似の経過をとる。50～54才以外はいずれも明治36, 41年の下降の後上昇して、55～59, 45～49, 30～34才の3階級は昭和15年に峰を示し、40～44, 35～39才の2階級は昭和22年に峰を示す。ついで下降するが、昭和30年に55～59, 35～39才以外は上昇する。

50～54才は明治36年に上昇の後下降し、大正14年より上昇して昭和5, 12年に峰をつくり、同30年に下降する。

60才以上を除く他のいずれの階級も30～90台の間の昇降である。

c. a群とb群との比較

a群とb群より近似のおよび相違の点を挙げればつぎの如くである。

0～4才と60才以上は最も高性比を示し、角度近似の経過をとる。おおむね性比100以上を示すのは、この2階級のみである。

5～9才と50～54才は性比の高さおよび角度近似の経過をとる。20～24, 40～44, 45～49才の3階級は性比の高さが近似し、15～19, 25～29, 35～39才の3階級は性比の高さが近似する。

10～14才と30～34才は性比の高さが近似し、全年令階級中で最も低く、おおむね30～50台を示す。

10～14, 15～19, 20～24, 25～29, 30～34才の5階級は角度近似し、35～39, 40～44, 45～49, 55～59才の4階級におおむね角度近似する。

5～9才は戦前は10～14才群の角度に近似し、戦後は

50～54才の角度に近似する。

50～54才は戦前は60才以上と角度近似し、戦後は5～9才に近似する。

以上の如く「腸および腹膜の結核」死亡率は社会的条件によつて昇降するが、昇降の幅は少なく、かつ社会的条件改善の影響は各種の結核死亡の中で最も早く鋭敏に現われる。しかるに0～4才および60才以上を除く各年齢階級において各年代を通じて特記すべきことは、女子死亡が男子死亡よりはるかに多く、性比は100よりはるかに低く、昇降の幅も小さいことである。特に10～34才の階級の性比が著明に低く、女子青壮年が多く死亡することを裏書きする。これは「腸および腹膜の結核」死亡の特徴で、社会的条件より生物学的条件の影響が強いこと、すなわち他の何をもつてしても動かせぬ性による差の現われにほかならぬものと思われる。

稿を終るに鑑み、恩師吉岡博人教授および諸岡妙子助教授の御懇篤な御指導御校閲を感謝する。

参考文献

- 1) 吉岡博人：日臨結核 4 218～224 (昭18)
- 2) 吉岡博人：総合医学 8 657～662 (昭26)
- 3) 吉岡博人：日医事新報 1489号 24～27 (昭27)
- 4) 諸岡妙子：東女医大誌 24 81～88 (昭29)
- 5) 諸岡妙子，壺君代：東女医大誌 25 119～133 (昭30)
- 6) 吉岡他博人：日医事新報 1667号，22～27 (昭31)
- 7) 諸岡妙子，藤屋スエ：東女医大誌 29 180～201 (昭34)
- 8) 明石み代：東女医大誌 30 2284～2290 (昭35)
- 9) 明石み代：東女医大誌 30 2297～2310 (昭35)
- 10) 明石み代：東女医大誌 30 (昭35)

付表 「腸および腹膜の結核」性別年齢階級別死亡率(人口10万対)及死亡率性比(男子死亡率/女子死亡率)×100)

年次		1899	1903	1908	1913	1920	1925	1930	1937	1940	1947	1959	1955
		明治32	明治36	明治41	大正2	大正9	大正14	昭和5	昭和12	昭和15	昭和22	昭和25	昭和30
0~4才	死亡率	44.5	39.3	33.2	25.1	19.9	12.6	9.6	8.3	7.8	3.6	2.4	0.4
	総数	44.5	39.1	32.1	24.5	20.5	12.0	10.1	9.0	8.4	3.4	2.5	0.4
	男女	44.5	39.5	34.4	25.7	19.2	13.2	9.2	7.5	7.2	3.7	2.3	0.3
	死亡率性比	100.0	99.0	93.3	95.3	106.8	90.9	109.8	120.0	116.7	91.9	108.7	133.3
5~9才	死亡率	15.5	22.6	23.3	23.0	27.5	20.9	18.3	13.8	12.8	4.2	2.7	0.4
	総数	14.0	17.9	17.4	17.4	21.4	16.3	15.1	12.4	11.7	3.6	2.5	0.3
	男女	17.1	27.5	29.3	28.8	33.7	25.5	21.6	15.3	13.9	4.8	2.9	0.4
	死亡率性比	81.9	65.1	59.4	60.4	63.5	63.9	69.9	81.0	84.2	75.0	86.2	75.0
10~14才	死亡率	15.5	25.7	33.0	36.5	44.7	36.5	32.9	29.2	25.0	5.2	2.8	0.3
	総数	11.0	14.5	17.4	20.2	24.3	20.0	19.5	18.2	17.0	3.2	1.6	0.3
	男女	20.2	37.2	48.9	53.4	65.5	53.4	46.6	40.4	33.2	7.2	4.0	0.4
	死亡率性比	54.5	39.0	35.6	37.8	37.1	37.5	41.8	45.0	51.2	44.4	40.0	75.0
15~19才	死亡率	22.5	42.2	55.8	71.2	104.2	97.9	85.1	90.8	89.5	16.3	7.0	0.8
	総数	16.1	28.8	35.3	44.3	64.1	60.5	57.7	63.3	71.3	10.4	4.6	0.6
	男女	28.9	56.0	77.0	99.0	145.5	136.4	113.4	119.0	107.5	22.3	9.4	1.1
	死亡率性比	55.7	51.4	45.8	44.7	44.1	44.4	50.9	53.2	66.3	46.6	48.9	54.5
20~24才	死亡率	21.8	37.0	50.1	62.5	92.8	87.5	79.3	93.6	91.2	28.3	13.8	1.5
	総数	17.5	26.0	35.8	44.5	68.4	63.0	60.7	80.9	86.0	20.4	8.7	1.1
	男女	26.2	48.3	64.6	81.3	117.5	112.9	98.6	104.7	95.1	35.4	18.8	2.0
	死亡率性比	66.8	53.8	55.4	54.7	58.2	55.8	61.6	77.3	90.4	57.6	46.3	55.0
25~29才	死亡率	17.4	27.4	36.0	39.4	59.6	57.7	48.1	54.7	57.4	23.5	14.5	2.2
	総数	12.8	18.6	22.0	23.8	39.4	39.4	32.9	41.3	45.8	15.1	8.5	1.9
	男女	22.2	36.5	50.1	55.4	80.8	77.0	64.1	67.7	68.1	30.1	19.5	2.6
	死亡率性比	57.7	51.0	43.9	43.0	48.8	51.2	51.3	61.0	67.3	50.2	43.6	73.1
30~34才	死亡率	13.3	19.5	24.9	30.2	41.4	35.5	32.6	34.4	34.2	17.9	10.9	2.3
	総数	9.5	11.8	12.9	16.2	23.3	23.8	19.4	23.3	25.4	11.3	5.2	1.2
	男女	17.3	27.4	37.4	44.5	60.0	48.1	46.6	45.8	42.9	23.5	15.6	3.2
	死亡率性比	54.9	43.1	34.5	36.4	38.8	49.5	41.6	50.9	59.2	48.1	33.3	37.5
35~39才	死亡率	11.1	17.5	20.6	23.7	32.2	29.0	25.4	24.3	23.5	14.3	9.4	2.9
	総数	8.6	10.6	13.0	15.3	20.3	17.8	16.5	16.0	17.3	11.4	6.9	1.7
	男女	13.6	24.7	28.6	32.5	44.1	40.8	35.0	33.1	29.9	17.0	11.6	3.9
	死亡率性比	63.2	42.9	45.5	47.1	46.0	43.6	47.1	48.3	57.9	67.1	59.5	43.6
40~44才	死亡率	10.3	15.5	17.3	23.1	28.9	24.7	22.7	21.2	19.9	12.8	8.8	2.7
	総数	9.3	12.6	11.8	15.3	19.5	17.1	16.4	15.3	14.5	10.2	5.7	1.8
	男女	11.5	18.7	23.2	31.4	38.6	32.6	29.4	27.5	25.6	15.4	11.8	3.4
	死亡率性比	80.9	67.4	50.9	48.7	50.5	52.5	55.8	55.6	56.6	66.2	48.3	52.9
45~49才	死亡率	10.7	15.2	17.4	21.9	24.7	23.5	21.8	18.1	20.4	10.7	9.1	3.2
	総数	8.6	11.6	13.9	17.4	19.1	17.7	15.5	13.0	16.6	8.5	5.7	2.0
	男女	12.9	19.1	21.1	26.6	30.3	29.4	28.2	23.5	24.5	13.0	12.5	4.2
	死亡率性比	66.7	60.7	65.9	65.4	63.0	60.2	55.0	55.3	67.8	65.4	45.6	47.6
50~54才	死亡率	8.8	15.9	16.8	22.0	26.4	23.5	19.7	19.2	20.1	11.1	7.9	3.5
	総数	5.1	13.5	13.8	17.5	21.1	19.0	16.3	15.9	15.5	9.1	6.8	2.4
	男女	12.4	18.4	20.1	26.7	36.6	28.1	23.2	22.5	24.8	13.2	9.0	4.6
	死亡率性比	41.1	73.4	68.7	65.5	57.7	67.6	70.3	70.7	62.5	68.9	75.6	52.2
55~59才	死亡率	11.5	13.7	16.6	23.4	23.9	24.0	19.5	18.9	19.2	11.6	9.2	4.6
	総数	11.2	12.3	14.9	22.0	20.7	20.6	17.6	16.8	18.0	10.3	7.6	3.8
	男女	11.8	15.0	18.3	24.9	26.9	27.3	21.4	20.9	20.3	12.9	10.7	5.5
	死亡率性比	94.9	82.0	81.4	88.4	77.0	75.5	82.2	80.4	88.7	79.8	71.0	69.1
60才以上	死亡率	16.5	13.9	12.9	18.1	20.4	18.4	16.9	16.5	18.1	11.1	10.1	6.4
	総数	17.1	13.5	12.7	19.5	21.1	18.2	17.9	17.4	19.6	12.1	9.1	6.2
	男女	15.9	14.3	13.0	16.9	19.8	18.6	16.2	15.7	17.0	10.3	10.9	6.6
	死亡率性比	107.5	94.4	97.7	115.4	106.6	97.8	110.5	110.8	115.3	117.5	83.5	93.9